



国際ロータリー 第2690地区 第10グループ

玉野ロータリークラブ

■2009～2010年度 役員■
 会 長 東川 清隆
 会長レフト 岸本 昌法
 幹 事 槌田 正則
 副 幹 事 緋田 秀雄
 S A A 松尾 洋二
 副SAA 近藤 勇進

2009～2010年度
 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

週報

■事務局/〒706-0011 玉野市宇野1-11-1
 TEL. 0863-33-2228 FAX. 0863-33-2225
 ホームページ <http://www.tamano.or.jp/rotary>
 E-mail tamanorc@tamano.or.jp

■例会場/瀬戸大橋カントリークラブ
 〒706-0153 玉野市滝1640-1
 TEL. 0863-71-4500 FAX. 0863-71-4509

■例会日/毎週金曜日(12:30～13:30)

No.2058	
5月14日例会 プログラム	「自動車の安全性と品質管理について」 カローラ岡山総合サービス(株) 代表取締役社長 渡辺 誠様 (第2690地区第11グループガバナー補佐)
5月21日例会 プログラム	「“責任者出て来い!!”と言われて」 星野 要二君
5月14日のメニュー	・八宝菜・鶏のから揚げ・菜種煮・山菜御飯・お吸い物・お漬物・コーヒー

前回(5月7日)例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	26名	欠席者数	7名	出席率	78.79%	前回補正率	81.82%
	前回補正者	林君 近藤君 三谷君								
	欠席者	藤田君 東川君 林君 井上君 仲田君 小野君 山田(次)君								

来 訪 者 花岡 信一様 (岡山備前県民局健康福祉部 岡山備前保険所 衛生課長)

会長挨拶

皆様、今日は。今日は東川会長が公務ためにご欠席ということで副会長の岸本がご挨拶をさせていただきます。まず、本日のゲストをご紹介します。岡山備前県民局健康福祉部衛生課長の花岡信一様です。花岡様には後程卓話をして頂きます。

それでは、皆様これからごゆっくりとお過ごしください。

会長報告

- ・本日例会後、理事役員会を開催します。理事・役員の方はお残りください。

幹事報告

- ・葛尾ガバナー事務所よりロータリー青少年指導者育成プログラム(RYLA)のご案内が届いております。
 日時：平成22年6月6日(日) 場所：島根県立青少年の家(サンレイク)
 参加対象者：各クラブ推薦の14歳から30歳未満の青少年 登録料：無料(交通費・宿泊費は各自負担)
- ・他クラブ週報、例会変更通知は回覧させていただきます。

第11回定例理事役員会議事録 5月7日

- ・「ロータリー情報マニュアル」の購入について クラブで5冊購入し、メンバーに貸し出す。
- ・貴田次期ガバナー補佐の例会訪問は8月27日(金)に決定。
- ・今期の最終例会は藤田ガバナー補佐、理事、役員、各委員長の慰労会とする。

委員会報告

- ・親睦・家族委員会(三谷委員長)：<誕生日祝> 三宅(照)君22日、島田君24日、<結婚記念日> 井上君3日、白石君30日、松尾君30日。
- ・インターネット・雑誌・広報委員会(渡邊委員長)：「ロータリーの友」5月号の興味ある記事と「Governor's Monthly Letter」5月号掲載の玉野RCの「クラブ特別寄付(年次寄付)」記事のご紹介。
- ・ハイロー会(谷口ハイロー会幹事)：5月16日(日)の第171回ハイロー会組合せ表をボックスに入れておりますので、お帰りの際にはお持ち帰り願います。
- ・出席・プログラム委員会(谷口委員長)：6月11日及び18日の卓話を各役員・委員長の皆様に一言お願い致します。(テーマ：「一年間を省みて」)

スマイル・ボックス

- ・石川君一花岡様、よくいらっしゃいました。本日は卓話担当ですが、岡山備前保険所の花岡様にお願致します。
- ・島田君①一花岡さん、よくいらっしゃいました。
- ・松尾君①一花岡様、本日はよくいらっしゃいました。普段お世話になっております。

- ・ 緋田君、松尾君②、三宅(照)君①、白石君①、高橋君、谷口君、槌田君、富永君、渡邊君①、山田(孝)君①
ー玉野 RC 創立記念日。
- ・ 藤田君、山田(孝)君②ー松尾先生に大変お世話になりました。
- ・ 岸本君ーミニハイロー会 2 日目に優勝できました。賞品多数でした。
- ・ 松尾君③ーミニハイロー会、お世話になりました。
- ・ 三宅(照)君②ーミニハイロー会では参加の皆様いろいろなとお世話になりました。
- ・ 島田君②ー佐用ゴルフコンペ、石川会員には大変お世話になりました。
- ・ 白石君②ー5 月 2 日、3 日ミニハイロー会楽しみました。
- ・ 三宅(照)君③、島田君③ー誕生月。
- ・ 松尾君④、白石君③ー結婚記念月。
- ・ 大西君、渡邊君②ー早退です。

プログラム 「食の安全」 花岡 信一様 (岡山備前県民局健康福祉部 岡山備前保険所 衛生課長)

本日のテーマは「食の安全」ですが、最近は安全だけでなく安心という言葉もセットで使われるようになりました。「食の安全・安心」と言います。岡山県でも平成 18 年に条例ができましたが、これも「食の安全・安心」の確保及び食育の云々というような安全と安心をセットでマスコミも報道しますし、我々の日常でも定着していると思います。そこで、安全と安心を考えて頂きたいのですが、本質的には全く別のものです。食の安全は科学的根拠に基づいて安全かどうかを見極められるのですが、安心は人間の心 (マインド) と言いますか、そういうものですので、世の中には安全であるけれども安心してもらえないもの、逆に安全ではないけれども安心してしまっているものが混在しております。我々としても本当に安全なものは安全と住民が理解するように、それから安全でないものについては安全でないですということを気付いて欲しいというつもりで仕事をしているのですが、なかなか実現できてないというところ です。



BSE の問題。これは人間に対する危害は非常に僅かしかありません。ですから、ほぼ安全と言い切って良い訳ですが、このスクリーニング検査の全頭検査をやめるといのでしょうか、建前通り 21 ヶ月以上の牛だけ検査しましょうということがなかなか守れず、未だに全国どこでも簡易死亡検査をしています。これは住民の安心を確保するためには、多少の税金の無駄遣いになっても全頭検査をせざるを得ないという例かなと思います。こういった「食の安全・安心」というのが社会の中で注目されたのは、BSE が日本で最初に見つかった平成 13 年以降だという向きがありますが、平成 8 年の 0157 の事件が私個人にとっては大きな出来事として記憶に残っております。

この 0157 事件は皆様方もご記憶にあるかと思いますが、今の瀬戸内市邑久町の学校給食共同調理場で発生しました。これは本当に痛ましいことだったのですが、小学生 2 人が亡くなりました。楽しいはずの給食・栄養をつけるための給食、この給食を食べたことによって 2 人の小学生が亡くなったことは、これほど痛ましいことはないと思っております。この原因につきましては、最終報告書では原因不明と公表されております。然しながら、当時いろいろと調査をしまして、怪しいことが幾つか出てきております。その 1 つは調理に携わった方の 1 人に以前から下痢をしていた方がおられたという事実があります。調理員全員の血液検査をしますとジブログリンが 1 人だけ高いということからほぼ間違いのないと言われていたのですが、当時それを公表しますと魔女狩りではないですが、ひょっとするとその方が責任をとって自殺してしまうのではないかと、3 人目の死者を出してはならないということで、警察も業務上過失致死の捜査もという動きがありましたが、最終的には表には出さずじまいになりました。然しながら、当時の厚生省の原因究明班は、そのことを間接的に知りまして、その後調理従事者の検便制度が非常に厳しくなりました。それまでには月 1 回検便を下さいということだったのですが、あの事件以降は月 2 回検便をするようになり、それから自己申告ですが、健康チェックが非常に厳しくなりました。邑久町の事故後、カイワレを原因とするもっと大きな事故が堺市で発生しました。堺市の事故以降は、それほど大規模な学校を舞台とする集団食中毒がなくなりました。これは検便や健康チェックのお陰であると思っております。

それから、印象に残る事として平成 12 年の雪印の食中毒です。私の頭の中では雪印の食中毒は森進一の「襟裳岬」と繋がっております。この雪印の事故は 10 年前のことですので記憶がやや薄くなっていると思いますが、これは西日本とくに大阪近辺で次々と患者が出ました。最初は雪印自体も否定されていましたが、15,000 人位の患者が出まして、遂にはこの事件をきっかけに雪印乳業という大きな会社の存続そのものが大きく問われた事件でした。この事件の特徴・原因は黄色ブドウ球菌というものでした。この食中毒を起こした原因は低脂肪乳という普通の牛乳ではありません。脂肪の少ない、ダイエットに良いという謳い文句で、スーパーでは普通の牛乳よりやや安く売られております。今は違いますが、当時の低脂肪乳は脱脂粉乳で作っていました。

当時は雪印だけでなく森永・明治もほぼ同じでありまして、脱脂粉乳は生乳に比べて非常に安い単価でした。よくよく調べてみますと、雪印乳業の大阪工場で作った低脂肪乳に使った脱脂粉乳は北海道の雪印の大樹工場
で3月末に製造されたものであるとわかりました。更に調べて行くと、大樹工場は北海道の帯広と襟裳岬の中
間位にある幸福駅の近辺に位置するようです。3月31日と報告書にあります、工場の中にある受電設備の外
に鉄製の小屋のようなものがあり、そこへ大きなツララが落ちたそうです。100kg・200kgの大きなツララがそ
の受電設備をぶち抜いて中に刺さるような格好になって工場全体が停電したそうです。停電そのものは3時間
位で復旧したそうですが、一旦大きな工場が停電しますと、稼動していた牛乳を処理するタンク・パイプの中
に残った牛乳がそのままになっており、完全復旧したのは10時間位掛かったということで、実はその間に殺菌
されていない牛乳の中に潜んでいた黄色ブドウ球菌という食中毒を起こす菌がどんどん増殖して毒素を作っ
ていたということです。復旧後は続きの作業をしていたそうです。毒素を含んだ牛乳は殺菌されたようです。殺
菌されますと菌は死にます。ところが一旦出来てしまった毒素は分解されずに最終の脱脂粉乳に残っていた毒
素が凝縮され、残った脱脂粉乳が大樹工場から出荷され大阪工場へ届き、大阪工場はその毒素を含んだ脱脂粉
乳で低脂肪乳を作ってしまう、その低脂肪乳を飲んだ15,000人の方が中毒に遭ったというのが雪印の事件で
す。

冒頭に戻りまして、森進一が歌いましたあの名曲の「襟裳岬」に「襟裳の春は何もない春です」という寂び
がありますが、3月末でも軒に大きなツララが未だあり、それが昼間に気温が上がってくるとドスンと落ちる、
それがまさに「襟裳岬」であるのかなと思っております。

次に、やや古い話なのですが、BSEの話をして頂きます。平成10年前後には狂牛病と呼んだりしまして、
マスコミではイギリスの足が立たない牛の映像が繰り返して流されました。我々は非常に怖い病気で、あの牛
と同じように我々も足が立たなくなるのかなと洗脳されてしまいました。これは元々牛とか羊の病気で人間が
そのまま感染するものではないと言われていました。人間が罹患する病気を発病する場合はクロイツフェル
ト・ヤコブ病という病気になることというのですが、クロイツフェルト・ヤコブ病の原因は牛以外にも幾つか
原因があるようです。当時言われていたのは、イギリスでこの変異型ヤコブ病牛肉を食べることによって変異
型ヤコブ病になった方は150~160人いたと言われております。当時イギリスでBSEに罹った牛は100万頭近く
おりましたので、その率からいうと非常に低いと言われており、それを日本にもってきて同じような割合で計
算すると、日本では100年掛かって1人の変異型ヤコブ病の患者が出るか出ないかそれ位確率が低いものだ
と言われております。ところが、先程言いましたマスコミが煽るといふか少し誤解がありますが、怖い病気とい
うことで非常に心配しました。農林水産省は方々に税金を注ぎ込みました。例えば冷凍庫に眠っていた肉は国
が買い上げ、買い上げた肉はお金を掛けて焼却しました。その牛肉を買い上げる時に牛肉ではない豚肉を混ぜ
たということで食肉のドンと言われる浅田満が逮捕されましたが、あの人は何十億とやらを懐に入れたとか
も言われております。とにかく、あの当時言われておりましたのは、BSE対策に農林水産省は数年かかって2,000
億円位の税金を注ぎ込んだと言われております。その実は先程言いましたように、危険はそれ程ありません
でした。とくに平成13年10月18日からスクリーニング検査を我々の方でやっております、手が打たれて心配
が無いにもかかわらず多額の税金が注ぎ込まれたという事件です。

このBSEの話は国の講演会や講習会で時々聞きますが、講師の先生方が日本ではBSEで死んだ方が何人いるの
でしょうかという言い方をすることがあります。ですから、BSEに罹った牛を食べることによって発症する
という変異型ヤコブ病で亡くなった方は日本国内ではゼロです。然しながら、BSE絡みで亡くなった方は実際
にはおります。牛を飼っていた農家の方が自殺、北海道ではBSEの検査をされていた獣医さんが自殺、政府が買
い上げる肉の話では喧嘩の末に刺して亡くなったとか、そういう方がおられまして数人は亡くなられたよう
です。こんな馬鹿なことがあって良いのかということになるのですが、先程言いましたように安全と安心の違い
というのがこんなところにもあるのかなと思います。

最後に、「食の安全・安心」でキーワードと言いますか、どうすれば良いのかという話になりますと、必ずリ
スク・コミュニケーションをすることが大切であると言われており、これは日本だけでなく世界中で言われて
いることです。リスク・コミュニケーションとは関係者が意見交換をしてお互いに理解しましょうということ
で、まさに安全と安心が直結するような姿です。ですから、生産者・流通業者・消費者それぞれが勝手に思い
込んでいたらいけませんよと言う事です。皆が情報を公開・共有して相互理解をすることによって危ないもの
は危ないと皆が認識し、それから安全なものは安全であると認識し、誤解の生じない世界ができれば、「食の安
全・安心」は確保できるだろうと言われておりまして、我々も日夜努力しているところでございます。

ご清聴ありがとうございました。